

せいの看護学会 News Letter

Contents ◆理事長挨拶 ◆第15回せいの看護学会学術集会を終えて
◆学会の様子と総会報告

◆理事長挨拶

せいの看護学会理事長 大石ふみ子

2024年度、せいの看護学会は会員294名に増加しました。そのような中、本年度は、北斗わかば病院看護部長である村木ゆかり学術集会会長のもと、第15回の学術集会が聖隷浜松病院を会場として開催されました。プログラムすべてにおいて充実した学術集会であったと思います。学術集会会長はじめ開催にご尽力くださった皆様、参加者の皆様に感謝申し上げます。

せいの看護学会では、学会誌をオンラインから活用できるようになりました。ホームページも刷新中で、より活用しやすい形となっています。今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます



◆第15回せいの看護学会学術集会

学術集会会長 村木ゆかり(医療法人社団三誠会 北斗わかば病院 看護部長)

メインテーマ:看護の未来につなぐ、つなげる

日時:2024年9月14日(土)9:50~16:30 場所:総合病院 聖隷浜松病院

会長講演「看護の未来につなぐ思い」



現在、診療看護師や特定看護師等、高い知識や技術を持つ看護師によるケア提供ができるようになりました。それはとても重要なことですが、同時に看護の根底にある、患者に寄り添った看護も必要です。会長講演では、過去の経験から、母子をつなぐ看護や在宅看護の仕組みがない時代の在宅支援など、現在までその職場の看護としてつなげている事例を紹介しました。今後は、DXやICTが益々発展しますが、先輩たちが培った看護をブラッシュアップしながらも、未来につなげてほしいことを話させて頂きました。

☆シンポジウム「看護の未来のための活動」

シンポジスト 岡村 奈緒美 (聖隷浜松病院 総看護部長)

杉本 昌宏 (医療法人社団三誠会 北斗わかば病院 理事長・院長)

高関 左保 (訪問看護ステーション上西 所長)

藤原 昂樹 (西山病院 未来型デイケア Harnes 所長 理学療法士)



相手の価値に思いを馳せて、その人らしさを尊重する対話型の組織作りを行い、組織的役割を育てる研修を行っている。すべてのライフステージにおける支援として、訪問看護の機能拡大、多機能化に取り組む。看護の未来にAIが活用されるが、AIができない看護として、感情的なつながりの構築、個別化されたケアなどが考えられる。構想から5年掛けて利用者の自立支援と介護度改善を目的に未来型デイケアにリニューアルした話など、どのシンポジストの話も引きつけられる内容でした。

☆特別講演「看護の未来」

演者 友納里緒（参議院議員）

座長 市川美江子（北斗わかば病院副院長）



参議院議員として、予算委員会で「夜勤看護確保対策」「職場の子育て支援」「夜勤看護師確保」、また、転倒・転落が起きた際の医療側に厳しい判断が出されていることなどに対し、国会や委員会等で意見を述べるなど、現場の厳しい状況を理解した上での活動を行っていることがわかりました。

☆ランチョンセミナー「これからの日本の看護へのメッセージ」

演者 Eklund 源 Wakako（DNP APRN NNP-BC, FAANP, FAAN）

座長 中村典子（聖隷浜松病院 看護次長）



米国より新生児専門 NP のエクランド先生をお迎えしました。看護に対するエクランド先生の熱い思いに参加者が引き込まれる時間となりました。「これからの日本の看護への期待とメッセージ」として、

- ・自分の行なっている看護の価値をエビデンスとして提示
- ・エビデンスを検索し、批評する能力を得る
- ・チームでの看護コミュニケーション能力(発信能力)を高める
- ・自国の看護環境のみを見るだけで満足せず、視野を広く等々、未来の看護の為に今何ができるかの心を受け取りました。

☆ワークショップ1

「未来の療養環境を考えよう！デザイン思考で紡ぐ 看護×デザイン ワークショップ」

企画者 磯村克郎（静岡文化芸術大学 デザイン学部 デザイン研究科 教授）

炭谷 正太郎（聖隷クリストファー大学看護学部 准教授）



患者さんが抱く生活者としての困りごとを解決する療養環境のアイデアを考え、ペーパープロトタイピングをとおしてデザイン思考を体験しました。看護師、物作りの企業、看護学部の学生・教員、デザイン学部・研究科の学生 24 名が参加しました。各グループで手軽なペーパー模型を作成し、発表した際には斬新な発想に感心し歓喜の声があがりました。患者さんのプライバシーと安全な療養生活を両立するアイデアや患者さんが我慢しないで訴えやすくなる環境作りなどが提案されました。最後に、みんなのアイデアを合体した病院環境ができました。

☆ワークショップ2：未来を歩む学生と看護職が融合し看護の未来を共に考える交流の場

「ワールドカフェで看護の未来について語り合おう」

企画者 中村典子（聖隷浜松病院 看護次長）、

室加千佳（聖隷クリストファー大学看護学部）

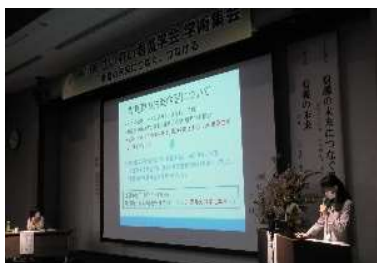
Eklund 源 Wakako



本企画では、看護学生 16 名、看護師 15 名の計 31 名が参加し、ワールドカフェ形式で看護の未来について語り合いました。エクランド先生からの話の「海のように広くて深い看護の魅力」に引き込まれた後、グループで、「少子高齢化時代に AI ではできない対人援助職としての看護の強み」や「人間力を高める看護職」等、看護の輝く明るい未来について、笑顔が絶えない話し合いが繰り広げられました。いい意見には、いいねシール👍 がつけられ、拍手が送られ、終始和やかな雰囲気な会でした。

☆交流集会：「看護職の生涯学習とは」～多様なキャリアの看護職から話しを聴き一緒に生涯学習について考えてみませんか？～

- 企画者 松下君代（聖隷三方原病院 総看護部長）
- 北堀昌代（聖隷三方原病院 看護次長）
- 佐藤晶子（聖隷三方原病院 老年看護専門看護師）
- 尾田優美子（訪問看護ステーション細江）
- 乾 友紀（聖隷クリストファー大学）



2023 年度に日本看護協会から出された「看護職の生涯学習ガイドライン」の紹介と 5 名の様々なキャリア歩んできた看護職から話しを聴き、参加者が自分自身のキャリアを考える機会としたいと考え今回の交流集会を開催しました。また、レクリエーションも兼ねて人生の最期の在り方を考えるカードゲーム「もしバナゲーム」を行いました。自分と他の人の価値観について考えられたと思います。今後の意思決定支援に少しでも活かしていけたらと思います。

☆演題発表表 （口演 15 演題、示説 13 演題）



◆総会

2024 年度の総会は、2024 年 9 月 14 日（土）9 時～9 時 30 分、総合病院 聖隷浜松病院 医局管理棟で開催しました。

総会は成立し、開会が理事長によって宣言されました。会員数 294 名（2024 年 8 月 20 日現在）について、出席者 33 名、委任状 78 名、計 111 名に対し、会則第五章第 22 条 3 の「総会は会員の 5 分の 1 以上の出席または委任状で成立とする」ことから、規定数を超過しており議案はすべて承認されました。

【企画委員会】

第 15 回せいれい看護学会学術集会は、聖隷浜松病院医局管理棟にて開催、参加者は 200 名を超え大盛會に終えることができました。第 15 回学術集会より研究発表や実践報告で看護の発展に寄与すると認められた演題を優秀演題として表彰することになりました。28 演題の中から、聖隷三方原病院 横山裕子さん「消化器内科・外科病棟における鎮静剤を使用した内視鏡検査・治療後の転倒・転落防止に対する取り組み」、北斗わかば病院 赤石ゆかりさん「A 病院における看護職員と介護職員の協働の現状-看護補助体制加算の研修会での意見から」、聖隷浜松病院 坂下千鶴さん「看護師が若年婦人科がん患者に対して関わりの難しさを感じる理由」の 3 演題が優秀演題に選ばれました。今後多くの方々が、ぜひ発表・参加したいと思える学術集会に発展していくことを願っております。

◆学会誌編集委員会

投稿をお待ちしています。

◆広報委員会

せいれい看護学会ホームページをリニューアルしました。

◆事務局から会費納入のお知らせ

年会費は 5000 円です。過去の納入がお済みでない方は、本年度分と合わせて納入をお願いします。

入会希望の方はせいれい看護学会ホームページをご参照ください。

<https://www.seirei-sons.com/>

◆第 16 回学術集会のお知らせ

日 時 : 2025 年 9 月 13 日 土曜日

場 所 : 聖隷浜松病院 医局管理棟

学術集会長 : 中野由美子氏 (聖隷淡路病院 総看護部長)

テーマ : 『地域』『組織』で横断的に活躍する看護の力

演題募集 : 2025 年 3 月 21 日(金)～5 月 13 日(火)

応募先 : ssns2025@seirei.ac.jp

応募資格 : せいれい看護学会会員であること (非会員は演題応募までに入会をお願いします)